第１０回地域のまち・絆づくり検討委員会

１．開催日時　　平成２７年８月３１日（月）　１３：３０～１５：３０

２．開催場所　　市役所１５階　１５０４会議室

３・出席委員　　【出席委員１５名】

青木委員、石井委員、石川委員、大島委員、古賀委員、

佐藤委員、角委員、田代委員、十時委員、長柄委員、西頭委員、

日高委員、平山委員、森住委員、森田委員、山口委員

４．傍 聴 者　　１名

５．議　　題　　（１）第９回検討委員会における主な委員意見等

（２）最終提言（案）について

６．議事概要

議題「第８回検討委員会における主な委員意見等」について

（特に意見なし）

議題「最終提言（案）」について

【委員】　表紙に（仮）と表示されているものは全部が案という理解でよいか。

【事務局】　そのとおり。全部が案で、これらを参考に一つに決めていただきたい。３ページに、目指す姿に「魅力」と「絆」と「担い手」を掲げているが、目標が幾つかあっても、一言でその姿をあらわすものがないと伝わりにくいと思うので、この三つの目指すまちの姿というのを一言であらわしたものにしたい。

【委員】　申しわけないが、今言った一言であらわすとなると、全部見てもよくわからない。

平成１５年に提言があり、それを受けて自治協議会制度が始まっている。今回の場合、それから１０年が経過し、いろいろ総括した上で、新たなステップとしてということだと思うが、この委員会の名称にも「絆づくり」と入れている。ということは、自治協議会制度を振り返ってみて、地域の絆が失われていることに対しての危機感から、わざわざこの

名称をつけて委員会をやっていると思う。そうすると、最初の目指すまちづくりのところに「絆」という文字が入っていないとおかしいと思う。何のためにこの委員会をつくったのかというところが、よくわからない。「取り戻そう地域の絆」という感じのものを最初に入れるなどしないと伝わらないというのが一つ。

それと逆に、私どもは「絆づくり」と簡単に使っているが、はっきり言って「絆」とは何だろうというのが、わかっているようでわかっていない。絆とはこういうものというのが前はあったが、なくなってしまいこういう状況になり、１０年間を見ると、絆を取り戻した上で地域を再生させないといけないというのが、始まりだと思う。市も、わざわざ「絆づくり検討委員会」という名前をつけているのだから。それを表現した形にしないといけないのではないか。

例えば、最初の「集い、楽しみ、支えあう　笑顔でつながるまちづくり」は、はっきり言って、「そうよね」で終わってしまうという感じがする。地域の絆づくり検討委員会として出す目指すべきまちとしては、あまりにも抽象的というか、当たり前過ぎると思う。だから、何が必要で何のために検討委員会を開催したのかというのをまず打ち出した上で、盛り込まないといけないと思う。言い方は違うにしても、「取り戻そう地域の絆」ということだと思う。

それと、全体を見て、これは県も含めて、行政機関がつくった公文書は全国同じパターンで、やはり一般の人が見ると、素通りしてしまう。これを読んでも、何となく響かない。

提言書としては、こういう様式でしようがないかもしれないが、キャッチフレーズのところで，かた苦しい言葉を使う必要があるのかと思う。例えば、ここに「なぜ今地域の絆づくりか」とかあると、何だろうと思うのではないか。だから、市長に出す提言とは別に、一般的な概要というのはもう少し考えて、読み聞かせるような形でつくってもらいたい。

私もいろいろな委員会に行って、いろいろこういうのを読んでいるが、結果的に、行数稼ぎかどうかわからないが、ダブりの表現が多かったり、最終的に何を言っているかわからないような文章がすごく多い。

こういうまちづくりの分野は、専門家だけじゃなくて一般の人にわかってもらわないと意味がない。地域に関心のない人たちに、「ああ、ほんとうに必要だね」と思わせなくてはいけない提言だと思うので、キャッチフレーズのようなものは、わかりやすい表現をするという工夫をしてもらいたい。ぱっと見て、「ああ、ほんとうに今地域の絆がなくなって、それをもう一回きちん再建して、地域を建て直さないと大変なことになるね」と思う

人が一人でも増えるようなものをつくっていかないと、せっかくつくっても、５年、１０年たったら誰も読まない、どこかに置かれているようなものをつくっても仕方がない。だから、ぜひ工夫してもらいたい。

それと、何でこれに至ったかというのをもうちょっと論理立てて書いてもらいたい。なぜあえて絆にしたのか。１０年間を総括した上で、顔の見える関係がなくなっているので、結果的にうまくいかないところがいっぱい出てきた、だからこそ今回こういう委員会をつくったんだと思う。

【事務局】　前回いただいた意見で訴えるような表現ということで、「はじめに」のところが、一応全部現状認識から入った形で訴えるような表現、やわらか目の表現で記載している。

【委員】　東日本大震災のことが書いてあるが、今回の場合はやはり一番の目標はそこから始まっているわけだ。あえて「絆づくり」というのを持ってきたのはそういうことでしょう。

福岡市も都市化がどんどん進んで、昔は、向こう三軒両隣のような、いろいろな地域の絆があって、顔の見える関係があったが、どんどん人口が膨らんで、ワンルームマンションやらマンションが多くなって、隣に誰が住んでいるかわからない状況になっている。１０年間自治会でいろいろやってきたが、きちんとやっているところもあるし、やる人が限られてきてできないところもいっぱいあったわけだ。じゃあ、どこに原因があったのかというと、やはり絆という部分だと思う。絆というのは、要するに、顔の見える関係というのもあれば、親子の絆というのもあるし、そこに住んでいる人たちのことをお互い気にかけながら生活していくということだと思う。そういうのがなくなってきているからこそ、こういう現状になっている。その対策として考えられるのが絆づくりで、もう一回絆を再建しなければいけないという思いから検討委員会を設置したはず。

私は最初にそういう説明があったので、そのとおりだと思って委員を承諾した。市民に訴えていくためには、もう少し理論立てていかないと、一般論的なことばかり並べてもなかなか伝わらないと思う。

【事務局】　今言われた、市民向けのものを別につくろうと検討している。まずは提言について皆さんの意見を伺って総論的に全部まとめたものをつくり、あとは市民向けにわかりやすく、超高齢社会とか防災とか、いろいろな面での絆の必要性、どういったまちをつくっていきたいのかを考えてつくっていきたいと思っている。

それと、言われたとおり、現状と課題の中で書いているように、福岡市というのは非常に幅広い特性を持ったまちであり、都市部もあれば、農村部もあり課題もさまざまある。その中で、超高齢社会がやってくるに当たっての絆というのを改めて検討していく必要があるということをうたっていたつもりだが、そこが少し弱いということなので再度検討したい。

【委員】　まさに今言ったことを書くべきだ。行政が上から目線で言うという遠慮もあるのかもしれないが，おそらくこれは理想であり、そんなことを言っていると、どんどんと年代が進み、大変な社会になってくると私は思っている。「集い、楽しみ、支えあう」とか言い続けている間に、現状を見たら大変な状況になってしまうと思うので、もう少しうまく危機感というか、これから１０年、２０年先にどうなっているかを認識してもらいながら、まさに今言ったようなことを明確に打ち出して、そのためにこうやっていくというほうが、すごくわかりやすいと思う。あまりにも、ある意味、万人受けというか、可もなく不可もなくみたいな表現になっているので、地域の絆をもう一回取り戻して、まちを再生しようという意気込みでつくったものが、いつもの普通のまちづくりの提言に終わってしまうのではないか、全体を読むとそういう危惧を感じた。

【事務局】　福岡市の現状とか、これから先の高齢化社会のあり方、数字的にこんなふうに変わっていきますとか、買い物支援とか外出困難とかそんなものも出てきますよということは、少し強目に書いてはいる。前回の意見も踏まえて、少し書いていたつもりだったが、もう少し検討する。

【委員】　絆というのはこういうものだという項目を一つ設けていいと思う。絆と言われても、意外とわかっているようでわかっていない。

だから、全体を見れば、絆に当たる部分はいっぱい出てきているかもしれないが、最初の段階で、東日本大震災や阪神・淡路大震災の例も入れながら、絆というのは具体的に何なんだというところを少しかためながら、じゃあ、それが実際どういうふうに役立って、どうなったというのをある程度見せてくれないと、日本語というのは意外と抽象的な言葉なので、すーっとそのまま入ってくるが、絆って何でしょうと言われると、おそらくなかなか答えにくいところもある。もう少しそういうところを強調するような、うまい工夫が必要なのではないか。あまりにも一般的というか、悪くはないと思うが、何かインパクトがない。せっかくこういう形で１０年たって検証して、絆がなくなってきている、これをもう一回再建し取り戻して、ほんとうのまちづくりを進めようという思いが、もう少し伝

わるような構成や文面にしてもらいたい。

【事務局】　今委員が言われたような、顔の見える関係づくりをしようというのが、３ページの「絆づくり」のところだが、確かに一言で言うとこうなる。逆に、顔の見える関係とかのほうがわかりやすいか。

【委員】　そうだ。だから、絆という項目を設けて書いたほうがいいと思う。この中に書いていると薄まってよくわからない。

【委員】　福岡市のコミュニティの話は、ほかの自治体も興味を持っている。１０年間たって、どのような展開がされるのか注目している。そのときに、ほかの自治体にどう説明するかと思いつつ、これを見ている。もう１点は、私はコミュニティをやっているので、今から役員とか自治協の人たちにこれを説明しないといけない。そのときに何がポイントかというと、この絆づくり検討委員会ができたとき、保健福祉が入ってきたというのが本音じゃないだろうか。

地域包括の話しが出てきて、待ったなしの世界が来ている、地獄絵が来ると、私は地域に行ったときには言い始めている。それで、やはりみんなが一緒に担わないと始まらないというので、防災・防犯から始まり、今、高齢者支援が始まり、最終的に認知症の話が出てきている。そっちのほうが説明しやすいのではないかという思いがしている。行政の遠慮というのはよくわかるが，地元には緩やかな話でまちづくりをしますよというのではなく，そういう話をしないと伝わらない。今回，コミュニティ推進課が中心で進めているので、保健福祉的な発想を出せるかどうかわからないが、それぐらいのことは言っていいのではないかと感じている。

地域に説明するときは、やはり今から超高齢社会になり、今までどおりでは対応できなくなるので、今までのコミュニティ活動とともに、改めて絆づくりをやっていきませんかと言うべき。今、顔の見えると言われたが、私は仲間づくりをみんなでやりましょうという社会をつくろうと考えている。それに企業が初めて入った形。それと、ほかの自治体に話をする際、福岡は先進的なとりくみをやっていると考えると、このキャッチフレーズでは先進的であることは説明できないと思うので、そこら辺を工夫すればいいのではないか。

地域に説明する場合と、ほかの自治体のモデルケースになるということを踏まえて。

【委員長】　本委員会での一つのキーワードである「絆」がキャッチフレーズの中に入ってくるということだろう。話を聞いていると、一番下の「魅力あふれる地域　笑顔あふれる仲間　それぞれの絆をつむぐまちをめざして」、このキャッチフレーズが一番近いので

はないか。「絆」のキーワードは必要だし、「魅力」と「絆」と「担い手」を感じさせるキャッチフレーズになると、よりいいという気がしている。

【委員】　もう１点だけ感じたことは、人がやるのではなくて、自分たちがやるわけですから、これをみんなでやる覚悟を持つということが具体的に入る言葉を考えると、一番下の「つむぐまちをめざして」の「つむぐ」には「やる」という感じがあるんで、あえて言えば一番下になるのではないか。どれがいいと言い切れないが、そういう何か創造的な話とか、覚悟が見えるようにということを言われたのではないか。

【委員】　うちのＰＴＡの去年と今年のスローガンは、「今こそ深めよ、学校・家庭の地域の絆」になっている。とにかく待ったなしだ、これを今我々がやらなければ、ほんとうに子どもたちの将来はないということを訴えている。受け取った側が、そこまで来ているんだ、もうほんとうに待ったなしなんだというインパクトというのが必要じゃないかと私も思っている。

【委員】　まさに今言ったことが出発点じゃないかと思うので、それはうまく強調していいのではないか。そうしないと、どこに説明しても「ああ、どこでもやっているよね」で終わってしまう。これは新聞でいえば見出しのところだと思うが、この見出しを見て、中身を読む人は多分いないと思う。ここのところで、やはりインパクトというか、何か違うことをやろうとしていると思わせないと意味がない。

先ほど言われたように、確かにこの中で選ぶとしたら、一番最後が一番ぴったりくる気がする。「集い、楽しみ、支えあう　笑顔でつながるまち」というのは、そのとおりだと思が、今まさに言われたように，それができるまで待っているような状況じゃない。だからこそ、覚悟を持って皆さんやりましょうということで、この委員会をつくったと思うので、それをにじませるべきだと思う。

【事務局】　このフレーズは、仮ということで一番上のものが候補となっていた。各委員言われたように、せっかくここまで１０回の会を重ねて議論いただいたのに、少しインパクトに欠ける。やはりフレーズで引き込んで、読んでいただかないといけないということで、コミュニティ推進部で複数の案を出そうということで、今回、幾つも案を出させていただいた。

委員が言われるように，インパクトがあって、しかも全体を言い切れるものをということで、あえてたくさん出させていただいて、各委員の皆様からご意見をいただきたいと思っている。何かありましたら、遠慮なくご意見をいただきたいと思っているので、よろし

くお願いします。

それから、概要版の話が出たが、これも前回の検討委員会で、市民や企業向けに、どうして企業が地域活動に参画しないといけないのかというのをもっとわかりやすく発信すべきだというお話をいただいている。今回添付しているものは，この提言をある程度要約している要約版であり、これから、企業向け、市民向けについて作成したいと考えている。

【委員】　今いろいろな意見が出ているので、キャッチフレーズは、この１行じゃなくても、どれかとどれかをつなぎ合わせて一つのキャッチフレーズになっても構わないと思っている。だから、今日の会議で皆さんの意見を聞いて、行政がこれを仕上げていくという気持ちがあるということを皆さんにわかってもらいたいと思う。

それと、確かに行政がこの提言案をつくると、市民向けに配慮された部分があるのではないかという意見も出ました。私は、今、ほんとうに絆づくりが大切だと感じている。昔と違って、今はマンションなどいろいろな構成が変わってきた。では、今なぜそれが必要なのというのが、やはり昔と今の違い、現代というところで、さきほど委員が言われたような言葉をキーワードとして、今日いろいろたくさん出ている文章のどこかに入れ込んで、一つのものとなるような仕上げ方でもいいのではないかと思う。

【委員】　今言われたように、キャッチフレーズが一番重要な部分であると思う。きちんと最初に現状と課題のところで書いたほうがいいのではないか。今、だからこそ絆を取り戻そうということだと思うので、最初に項目としてきちんと書いたほうがいいと思う。個別に中でいろいろ書いていても薄まってしまうので、やはりこういうものは論理立ててきちんと訴えていかないと、あれもこれもになると拡散してよくわからないことになる。今言われたポイントは重要だと思うので、どういう絆を取り戻すかという具体策がいまいちわかったようでわからないところもあるが、そこまでは言わない。そういう起承転結じゃないが、全部読んで、「ああ、言いたいことはわかる」というようにした方がいい。

【委員】　これを地域で説明するとしたら、博多弁丸出しで、「今なぜ地域づくりせないかんと、取り戻そう地域の絆って書いちゃあけど。昔はこうやったろうが。でも、今はこうやろうが。だけん、こうじゃないと、ああじゃないと」という形で説明すると思うし、いろいろなところから質問があったとしたら、住まいの状況、構成によって、こちらの答え方が変わってくる。

【委員長】　　今、話があった２ページの現状と課題に丸で五つ書いてあるが、この五つを簡単に示すと、最初は、近所づきあいの希薄化がある、二つ目は、魅力のある地域活動

への参加が不足していると、それらを受けて、次の三つ目の「魅力づくり」「絆づくり」「担い手づくり」になる。どの課題がどういうふうに結びついているのかがわかる構成にしないと、そこがくみ取りにくいのではないかなと思う。だから、これが今まさに起きている課題だというのが迫ってくるような書き方にすることによって、全体の構成を少し整理するといいのではないかと感じる。丸で書くと、全部フラットになって、どこが重たいのかよくわからなくなってしまう。提言というと、大体こういうスタイルになってしまうが、開いたときに、どこを読んでいくのかがわかるように構成すると、よりいいと思う。

【委員】　よくよく考えると、提言というのは、市がつくる文章じゃない。我々がつくる文章だから遠慮する必要はなくて、ここで言ったようなことをきちんと踏まえた上で書いてもらえばいい。我々も、これは市が出すものと錯覚してしまうが、ほんとうは委員会がつくった提言だ。市の基本計画とかと違って、ここは提言としての文章だから、危機感を持って踏み込んだことを書いてもいいと思う。

【委員】　地域活動をしている者の一人として尋ねるが、提言を出した後、地域は何をして、どう変わっていくのか。実際にそこら辺のところを私は知りたいと思っている。

【事務局】　基本的には趣旨のところに書いていることを目指して、それぞれ求められる取り組みと書いているように、こういったものがそれぞれ求められているという形の提言になっている。我々としては、関係者の皆さんに、まず、提言を委員会からいただいているという説明をする。これを地域で読まれて、こういうところはいいから、じゃあ、やってみようと校区でできるところからやっていただきたいと思っている。

【委員】　その後は，それぞれの校区にお任せなのか。

【事務局】　どの取り組みを始めるかは校区に判断してもらう。当然それを後押し、支援するメニューとして、我々はこれに合わせた形で支援するが、主体は地域。提言の中に、市としてやるべきことを書いていただいているので、もし提言に書いてある取り組みをやられるところがあれば、我々としては、それを応援させていただく。

【事務局】　一番肝として何をしていくかというのは、２３ページに戦略的な推進ということで書いている。地域において、最初の「魅力づくり」では、校区ビジョンの作成。ここでも校区のいろいろな違いとか、どういう状態だというデータはあるので、そういったものを踏まえて、校区で特色あるまちづくりを進めていくために、みんなで話し合う場をつくっていきたい。もう一つは地域カフェで、今は少しずつ広がりを見せているが、これをもっと広げていきたいと思っている。あと、地域活動に企業が参加しやすいような仕組

みづくりを進めていく。まず、最初のほうでは、こういったことを進めていき、地域と一緒になりながら、私たちも支援をしていこうと考えている。

地域カフェは、いろいろな形で地域内に広がっていって、その中から、例えば、見守りとかのグループができてということが理想形だと思っているが、そういったグループをつくりましょうという押しつけではなく、まずは、住民が参加しやすい仕組みや場所をつくっていくことが大事だと考えている。

【委員】　温度差がますます広がっていくことになるのではないか。

【事務局】　全校区で同時にやっていくのではなく、地域の特性を生かしながらやっていくしかないと思っている。

【委員】　私はこの内容を見たときに、地域によってものすごく温度差があると思っている。だから、これが提言として出たときに、「あ、ここの部署でうちはこういうふうなことをやって、ここは結構クリアしているよね。でも、この部分って、まだうちは全然取り組んどらんね」とかを考えながら、それこそ行政と共働でサポートしてもらいながら、自分たちができるものを一つでも地域におろして、地域がよくなっていく土台になっていけばいいと思っている。これが出たからといって、全部が全部すぐできるものではないと思うが、継続しながらやっていくことの大切さというのはあると思う。

これは提言として出すが、地域に持っていったり、区の会長会とかいろいろなところに出すときに、これだけ膨大なものを一つ一つ見るかというと、一通り全部読まないと思うので、このＡ３の２枚ぐらいにまとめている概要版に、少し訂正という形で、その部分をここに織り込んで、各会長会とか地域におろして、できるだけ活用できるようにしてもらいたい。せっかくここまでつくるわけだから、見やすくて活用しやすい形にするというのは、すごく賛成だ。

【委員】　この提言は、市ではなく我々の名前で出す。それを考えると、大体まとまっているが、一番最後の結論のインパクトがすごく弱いと感じる。さらに具体的にこれを進めるためには、例えば、ここにある住民、企業・事業者、大学等、公民館、市役所を含めた定期的な会合みたいなことを持てるような組織を持って、絆づくりを議論しなさい、そういう機関をつくりなさいみたいなところまで突っ込んで出したほうがいいのではないかと思った。

そうしないと、最終的な結論が、やはり絆が薄まったことが地域づくりが難しくなった原因で、じゃあ、そのためにはどうすればいいのか。絆づくりは、これからも含めて、今

までやっていた人たちだけがやればいいものじゃないと気付いてもらわないといけない。例えば、住民もそうだし、企業も事業者も大学も含めて、市役所でも一つのコミュニティ推進課だけじゃなくて、全庁でまちづくりのやり方を考えないといけない時代になっている。要するに、今まちづくりをしている人たちだけに全部を負わせずに、いろいろな人たちが定期的に集まってまちづくりを考えるような組織を設け、その中でできることをやっていくようなシステムをつくっていくべきじゃないか。あくまでもこれは提言なので、やるかやらないかは市の問題だ。

平成１５年のときは、当時出された提言をもとに自治協議会制度というのができている。そういう何か形になるようなものを提言の中に盛り込んでいいのではないかという気がしている。

このままだと、何となくやりましょうだけで終わってしまう気がする。基本的に、重要事項として常設の話し合いの場を設けなさいと、委員会として提言に盛り込んでもいいのではないかという気がするが、いかがか。

【事務局】　そこは互いの役割を示した上で、関係者が集まって推進していく機関を設けるということを盛り込むことも、全然それは必要だと思うので、市としても検討したいと思うし、提言の中にも入れる方向で検討する。

【委員長】　テーマに対して実行員会をつくって案を詰めていく。推進委員会というか、そういうものなりをやっていく。この検討委員会の委員にも何人か参加してもらい、推進委員会で継続して実行していくといい。

【事務局】　もともと本市には「コミュニティ施策推進委員会」という組織があり、今までは企業や大学などは委員にはいなかったので、そこに新たなメンバーを入れ、拡大したような形で組織することも可能なので、そういうことを含めて検討する。

【委員】　その場合も、企業がお客さんではなく主体者として入れてほしい。

【事務局】　そのようにする。

【委員】　キャッチフレーズに対する補足になるが、今、行政も、地域も企業も、この提言を受けて何かしようとするときに、提言を受けたからといって、自治協議会が何の支援もなく自ら動くことはあまりない。やはり行政の指導が一番効果的。挙げられている地域ビジョンや地域カフェというのは、ある意味、行政ができるから、挙がっていると思う。一番重要だとわかっているし、地域にも効果的だということで挙がっていると思うので、お互いの立場を理解し、動きやすいものが挙がるというのは事実だろう。ビジョンもカフ

ェも、重点的施策と見ると行政からのインセンティブを与えられ、地域も実施しやすいという話と、難しいのは、地域と企業との共働の取り組みがどうやったら動くのか。地域にはまだイメージがないと感じる。

１番目の校区ビジョンは、補助金などの支援が出て、校区担当者が取り組んでいきましょうと支援していき、地域が理解すれば、手を挙げられるだろう。そして、２番目のカフェは、補助金等の支援ができれば、今やろうとしているところもあるので、各校区に一つぐらいという話だったらできそうな気がしている。企業と地域との共働の仕組みについては、議論があったように、何か校区で共同体のようなものをつくることや、企業にイニシアチブを渡して、企業がそれに乗ってくるような仕組み。そういうものを書き込まないと動かないのではないかというのが直感的に思うので、よっぽどすごいリーダーシップがない限り、地域はこれを見て動こうというインセンティブが感じられない。反対に、これが重要で実施していくのであれば、やはり行政が先導してインセンティブを与えられるものが実施できるものと理解している。地域はまだそのレベルだろうという気がする。

だから、戦略的に推進するには、絆づくりの縦糸を通すためにはこの取り組みが重要であるとはっきり言い切らないと、何で選んだのかと言われたときに、ただ実施しやすいからとなってしまう。重要だからこの取り組みをやっていきますという話で、インセンティブを与えるプロジェクトになっていかないと説明しにくい気がするので、後ろ支えを説明した方がいいのではないかなという気がした。

【事務局】　戦略的な推進の中身は非常に重要で、多くの住民を巻き込んでいくための仕組みづくりとしては、最初にこういった取り組みをやっていったほうが、次の展開につなげるのではないかというところで、まず戦略的な推進の第一歩という位置づけをしている。もうすこし説明を書き込んで、意味づけすることはできる。

【委員】　イメージでいうと、第４の「戦略的な推進」をすすめるために、第５の「共働による推進」で、みんなで集まってもらいながら具体策をつくっていくという感じになるのか。

【事務局】　第３の「各論」の中にずっと挙げている取り組みのリーディングプロジェクト的なものが第４の「戦略的な推進」で、第５の「共働による推進」は、これより前の全体の取り組みの推進を共働でやっていきますというつくりになっている。

【委員】　そうであれば、共働で推進していく組織の組織化をやると意外と結論としてわかりやすいと思うが、どうか。

【委員長】　共働のパートナーの仕組みづくりをどこが担えるのかということか。

【委員】　どこで担えるかということ。

【委員長】　どこで進めるのか、推進するのかという一つの案をここに示すといいのではないか。今の共働事業提案制度も、まだまだＮＰＯ、ボランティアの範囲で、共働の枠組みはまだ小さいというと語弊があるが、本来の住民サイド、自治協議会など、一番重要なところにだんだん入ってきていますので、そういったところがここに入ってくれば、福岡市の独自の共働事業そのものとの関連性も語っていけるのではないかと感じる。

【委員】　要するに、自治組織にやらせていたものを、企業や大学なり、事業者も含めて、意識を持たせて、責任を持って考えてもらえる組織をつくってくださいということ。組織であるか、協議会であるか、わからないが。せっかく企業を新たな担い手にという話しが出てきているので、それを具体化・具現化する方策として、今までお客さんで何となくやっていたけど、そうじゃなくて、あなたたちが参加すればきちんとできるというふうに意識を変えれば変わるし、そのために企業も一緒に考えていきましょうと、それがどういう形になるのかはわからないが、発展していき、最終的に条例になるかはわからないが、ぜひ盛り込んだほうがいいのではないかと思う。

【事務局】　そこは、また委員長ともお話ししながら、案はつくるので、盛り込むような形で考える。推進していくためにどういった話し合いをしていくのかというのは大事なことで、形がないと一般論で終わってしまうという気がしている。

【委員】　私たちが望ましいと考えず、それは地域が考えること。提言として、つくりなさいと謳えばいいだけの話。市がつくりますと言っているわけじゃないので、そこで遠慮したら、そもそもこういう検討委員会そのものの存在意義がなくなるので、提言なんだから、つくってくださいということでいいのではないかなと思う。

【委員】　少なくとも、可能性が高いとか実現性のあるものというのが大前提にある。

【委員】　自分のイメージでは、キャッチフレーズの最後の「魅力あふれる地域　笑顔あふれる仲間」、こういう仲間をつくって、３番目の「絆のまち“ふくおか”をめざして」という話をつなげるということだろうと思う。仲間をつくって、絆のまち“ふくおか”をつくる。一番下の「魅力あふれる地域　笑顔あふれる仲間」に何かつけた方がいいのかもしれないが、最後の１行は「絆のまち“ふくおか”をめざして」というふうになると、少しは具体的になってくるのではないかと思う。この委員会が提言するので、委員として言わないと、任せたという話じゃあんまりなんで、自分で考えるとしたら、そんな感じがい

いなと思っている。

【委員】　それでいうと、「取り戻そう地域の絆」は弱い。逆説的に言わないとインパクトがないので、「取り戻せ地域の絆」とか、そういう強目に言ったほうがインパクトはある。

【委員】　ほんとうのことを言うと、短いほうがいいと思うが、あんまり長くなると、キャッチフレーズにならないこともある。

【委員】　「取り戻せ」といったら昔に戻るみたいなイメージもあるので、この提言は、新しいものに生まれ変わるというか、やはり新しい地域、新しいまちをつくっていくというのが前面に出るようなフレーズのほうがいいと思う。

【委員】　今言ったことと絆を織り込まぜて、ひねり出してもらったらいいのではないか。キーワードは、まさにその二つだと思う。

【事務局】　「魅力あふれる地域　笑顔あふれる仲間　みんなでつむぐ絆のまち“ふくおか”をめざして」みたいなイメージか。

【委員】　新しいものを生み出すことと絆という二つを織り込みながら、それをあらわすようなフレーズ。確かに、言われたように「取り戻す」なら昔に戻るだけなので、絆を取り戻して新たなものを生み出すという意味合いが出るキャッチフレーズにすれば完璧ではないか。

【事務局】　「はじめに」のところに、「新しい形の地域の絆」というフレーズは入れている。

【委員長】　できたら、「新しい」という形容詞は使わないほうがいい。

【委員】　ぜひその際に参考にしてもらいたいのは、今パソコンでもあると思うが、類似語辞典というのがあって、例えば「新しい」と入れたら類似語がいろいろ出てくる。それを見ながら、すごくいいのを選ぶ。要するに、「同じ言葉は繰り返さない」と「難しい言葉はわかりやすく言う」というのが我々の原則だ。よく検討するという言葉を使うが、検討というのはわかっていてわからないような言葉で、これはなるべく使わないようにしている。わざわざ図書館に行って調べなくても、今そういう便利なものもあるので、そうやってうまく二つの要素が入るようなものを探せばいいのではないかなと思う。それと最後の結論があれば、それだけでもう真ん中がなくても立派なものになると思う。

【事務局】　我々だけでは限界があるので、何かいいフレーズが思いつかれたらお知らせください。ご意見をまた振り返るので、言っていただいた方がいい。

【委員】　今二つ言った要素は重要だ。その二つが入っていればいいと思う。

【事務局】　絆という言葉は、案では「顔の見える関係」などにしているが、言葉的には「絆」のほうがいいか。

【委員】　せっかく「絆づくり委員会」なので、その方がいい。提言ができれば、この検討委員会の名前はなくなるわけだろう。

【委員】　この表題だけ今日ここで意見を聞いて、ある程度、押さえておいたほうがいいのではないか。

【委員】　あとの文章に関しては、意見を出したものをまた少し修正しながら仕上げていいが、ここは表題になるので決めた方がいい。

【委員長】　いかがか。ほかに意見はないか。

　内容については私に一任いただいて修正する。この表題というかキャッチフレーズについては、一番下をベースにしながら、少し案を整理し、これでいきたいんだけどということで一度各委員に投げかけ、メールででもまた意見をいただき、最終的に確定していくということにしてはどうか。

【委員】　さきほど言われた「魅力あふれる地域　笑顔あふれる仲間」の次、何て言われたのか。

【委員長】　「絆のまち“ふくおか”」。

【委員】　なぜかといったら、「仲間」というのが重要かなと思っている。みんなで取り組むということなので、少しはまっているものを選んだ。そういう感じでつなげていただけたらいい。さきほど言われた「新しい」ということをどこかでまたつなげて。

【委員長】　この「つむぐ」という言葉が、ちょっと私もどこまで意味を持っているのかわからないが、なかなかいい言葉で、これだけ見ていると、「絆をつむぐ」というのが何か新しさも生み出しているような感じがある。だから、「絆をつむぐ“ふくおか”」で、「まち」と言わなくてもいいのでは。こういうキャッチフレーズでは、今まであんまり使われていないのではないか。

【委員】　「めざして」じゃなくて「ふくおか」で終わるのもいい。

【委員長】　もう１度、意見をいただく形で、委員会としては、これで締めたいと思うが、宿題として、この表題だけは確認をしていただくということでいいか。

〔「異議なし」の声あり〕

―― 了 ――